

フィリピン、パラワン島のアズキハタの性転換と成熟、産卵期について

○三品裕昭・茂木正人・河野 博

東京海洋大学 海洋環境学科 魚類学研究室

いわゆる“ハタ”と称されるハタ亜科魚類は、11 属約 110 種からなる。ハタ亜科のほとんどの種類は、雌から雄に性転換をする雌性先熟であることが知られている。しかし、ハタ亜科を構成するアズキハタ属(アズキハタ 1 種からなる)については、成長や食性、あるいは幼魚の擬態などに関する研究はあるものの、繁殖生態についてはほとんど知られていない。

そこで本研究では、著者らのフィリピン産ハタ科魚類の繁殖生態研究の一環として、562 個体(全長 150-450mm)のアズキハタについて、生殖腺の肉眼と組織学的観察を行い、成熟サイズや産卵期、性比、性転換、雌雄同体個体の性機能などについて検討し

た。その結果、393 個体(全長 150-430mm, 72%)が雌で、139 個体(218-450mm, 26%)が雄、13 個体(230-420mm, 2.4%)が雌雄同体魚であった。なお、17 個体については性の判別ができなかった。雌の生殖腺指数は 1, 2 月(乾季)と 9 月(雨季)にはやや下がったものの、産卵は周年行われていると考えられた。雌雄同体個体 13 個体のうち 9 個体で雄の性細胞が確認されたことから、機能的な雌雄同体魚であると判断された。雌雄同体個体が機能的雄とした場合、性比は 0.387 であった。

キーワード: ハタ亜科, アズキハタ, 性転換, 雌雄同体